

相沢あきこ

千歳市議会活動だより

相沢あきこ通信

2025/5/1発行

No.6

〒066-0028

千歳市花園3丁目9-11

電話 080-1895-7912

eメール ryoteniharu@gmail.com

～皆さん元気にお過ごしでしょうか～

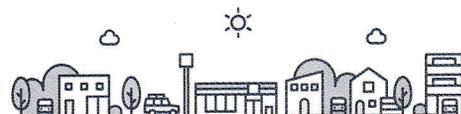
相沢晶子です。日頃より、ご支援誠にありがとうございます。

1期目4年間の市議会議員活動で、他のどの議員よりも多い質問をしました。今回は、この3月の定例会市議会に提出された「陳情」のご報告と、4年間の活動の一部を紹介いたします。



現在取り組んでいる事項…！

有害物質『PFAS（ピーファス）』について



ラピダス社が千歳市に立地することが決定した2023年より、環境への影響を懸念しています。

半導体工場はPFASを使用しますが、千歳市や道庁は特定PFASと呼ばれるPFOA（ピーフォア）・PFOS（ピーフォス）・PFHxSしかモニタリング検査しません。しかし、ラピダス社を含め半導体工場で現在使用されているPFASは、それら特定PFASだけではありません。

使用しているのは、日本国内では規制が全くない、いわゆる「代替PFAS」というものです。ラピダス社が、自社が使用するPFASの種類を開示することで、行政が監視できるようになります。この体制を構築すべきと判断し、2年間活動してきました。

なぜかといいますと、「代替PFAS」も後に「特定PFAS」の仲間入りをする可能性が高いからです。日本のPFAS規制は大変甘く、諸外国では既に何種類ものPFASが規制されているのにも関わらず、日本国内で使用し放題という状況に、大変危機感を持っています。

なお、熊本県にある半導体工場TSMCは、使用するPFASを最近になり公表しました。国策であるラピダス社も、近いうちに公表してくれることを信じ、引き続き活動していきます。



EPA



私が講師として登録している「千歳市出前講座～水の勉強会～」は、この2年間で計15回、開催しました。

お声がけいただいた市内市外の皆さんに、この場を借りて心より御礼申し上げます。

議会活動で得た知見、そして自身の活動で得た内容を、皆さんと共有することができる場となっています。

今後も引き続き、お気軽にお声がけください。最新の水情報をお届けいたします。

令和7年3月定例会市議会の中で、
市民の皆さんからの要望である「陳情」が2件
不採択となりました。

私はいずれも大切な内容と考え、賛成しましたが
が採択とならず、非常に残念でした。



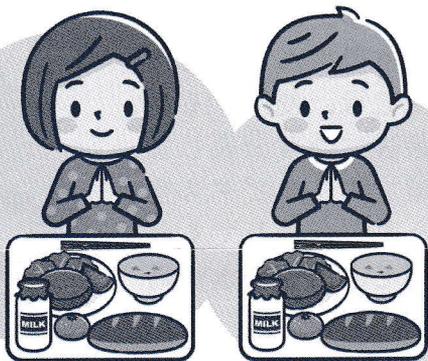
市の花 ツツジ

陳情1

「小中学校の給食費の値上げを中止し、
給食費を無償化」～不採択
昨年は大反対しなんとか止めましたが、今年
は賛成多数で押し切れ、給食費値上げが決定
してしまいました。陳情していただいた方々には
申し訳ありません。

市は値上げの目的を「給食の質と量の向上」
と説明していますが、その一方で値上げと同時
に「給食費への補助金の一部（値上げ額とほぼ
同額）を中止」する予定です。

これで給食費の質と量が向上される訳があり
ません。補助金を中止して、その負担を子供の
いる世帯に転嫁しただけと考えており、非常に
残念です。

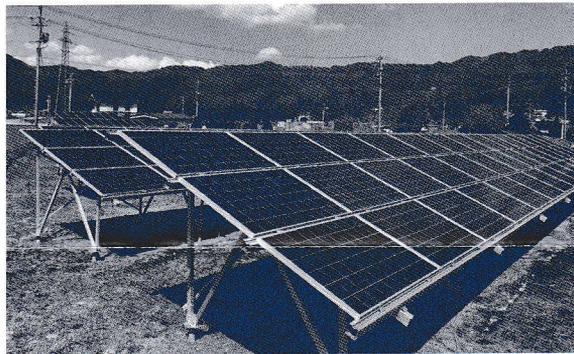


陳情2

「太陽光発電施設の設置に関する
ガイドラインの制定を」～不採択
太陽光パネルは、不動産扱いではないため国
の規制がほぼありません。

設置前の森林伐採や、故障機材からの重金属
流出による環境破壊等の恐れがあるため、道内
でも釧路市、石狩市、由仁町、長沼町等10以
上の市町村が、ガイドラインを制定し一定の規
制をしていますが、千歳市議会でのこの陳情に賛
成したのは残念ながら私だけでした。

新千歳空港脱炭素計画による空港周辺の太陽
光パネルの設置の計画もあり、環境面だけでなく、
安全上の問題も懸念しています。引き続き、
注視していきます。



おかげ様で、1期目任期を無事に終える事が出来そうです。
自身の信念を貫けた4年間となりました。ぜひ、5月の選挙で
も勝ち抜き、今後も皆さんの声を千歳市政に届けて行きたいと
考えています。

引き続き、ご指導・ご声援を頂けますよう、心よりお願い申
しあげます。

相沢あきこ事務所

開設予定：4月26日(土) から5月25日(日)



[花園7丁目13-11]



千歳市議会活動だより 別紙

現在取り組んでいる事項…！ その2 「ラピダス社の取排水」について

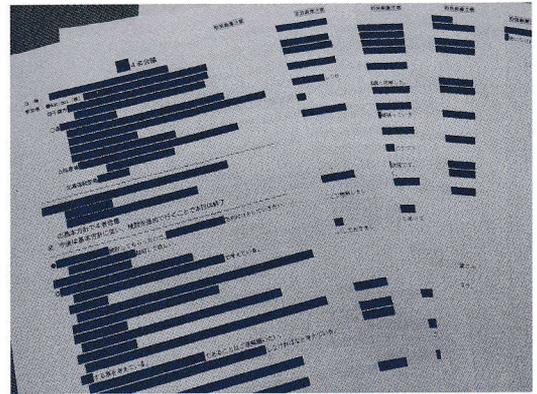
ラピダス社は、今春から始まっている試作ラインにおいては、主に千歳川の水を使用します（日量4,000 t）。しかし、2027年に開始予定の量産ラインでは、安平川を水源とする工業用水を使用する、と決定しています。そして、千歳市が整備する下水管を通り、清流の浄化センターを通じて、千歳川に放流されます。つまり、太平洋に注ぐ安平川という、千歳川とは水系が違う川の水が、千歳川に流れることとなります。私はこれを大変問題視しています。と言いますのも、以前「千歳川放水路計画」があったように、千歳川は氾濫しやすい川であり、その時は「千歳川の水を太平洋に流す」という計画をしていたほどなのです。ラピダス社の立地が決定し、現在、その時とは反対の向きに、日量24,000 tの水系の違う川の水が千歳川に流されようとしています。

ラピダス社の排水を千歳川に流すことを決定したのは、四者協議（国、北海道、千歳市、ラピダス社）という場だったことが明らかになりましたが、この内容について開示を求めたところ、北海道からは墨塗の文書が届

きました。これでは道民への説明責任が果たせていません。私は、治水の観点からも、安平川から取った水は、安平川に戻すか、太平洋に直接放流すべきとの考えです。

市民の皆さんが使用する水（日量4万 t）の約7割もの水を使用するラピダス社のために千歳市は、専用の下水管の設置をするということで、これを千歳川に向かって設置する正義はどこにあるのでしょうか。量産ラインの取水のために北海道は、安平川から22km以上の水道管を敷設するのですから、それと並行に下水管を敷設するという案もあるのではないかと考えています。

千歳川に、サケが遡上できなくなるような状況にならないよう、引き続き取り組んでいきます。



これが墨塗の文書です

コラム

「そこに市民参加はあるのか」という観点から、様々な内容が、市民への説明不足、市民との情報共有が不十分と感じることが多くあります。今日の給食費の値上げの実態は、「千歳市が実施している給食食材費への補助」の一部をカットするための値上げであり、値上げによる給食の量や質の向上につながらないことは、市民に知らされるとは思えません。

今年2月に新たに策定した市の「将来ビジョン」は、一昨年時点では市民会議を実施して市民との対話を経て決定するとのことでしたが、結果的に市民会議は実施せずに策定されました。しかも、このビジョンを策定したのはコンサル会社であり、約3,000万円の市税が使われています。内容は、ラピダス社立地による人口増加、街の活性化をうたったものであり、将来の未来都市のような千歳市が描かれています。



市議会の本会議場

私には、それらがとても身近なものには感じられませんでした。市行政には、市民の皆さんが望む、描く千歳市の未来を、市民の皆さんと共に探る、という重要な視点が欠如していると思います。今後、重要な決定を市がする際には、ぜひ市民皆さんの声を聴くというプロセスを大切にして頂きたいと思います。